

あべのだより



大阪市阿倍野区松崎町 3-6-25

TEL:06-6621-6024

FAX:06-6621-6070

3月号

e-mail: abeno-church@chic.ocn.ne.jp

HP: <http://catholic-abeno-church.net>

主とともに働こう

カトリック阿倍野教会 広報委員会

教会維持費献金振替口座 郵便振替:口座 No.00950-3-265515 加入者名:カトリック阿倍野教会

息と人間

カトリック阿倍野教会 主任司祭 山本英明

息について、昨年 4 月号巻頭言に書いたが、息は人間の命の根である。科学的にも呼吸があれば生、止まれば死を意味するし、聖書的にも神様は土塊であった人間に息を与えられ、生きるものにしたと記されている。だから、息こそ、人間の命の根源。よって、呼吸の根底を感じることで神様の存在と賜物を実感することができる。逆に、呼吸を気にせず、大切にしないことは、命を見つめず、大切にせず、さらには命の与え主である神様を知らないことに繋がる気がする。だから、ミサの前は呼吸を乱して他人とおしゃべりをするのではなく、沈黙して、せめて自分が今日も神様に生かされていることを感じ、感謝の祭儀に望むのが理想である。ミサ前にほんの数分でもいいから、座って呼吸を整えたらどうですか。できれば、毎日一回、特別なことをしなくて良いから、深呼吸などして、自分がしっかりと呼吸しているだろうか注意を向けることは、命にとっても信仰にとっても有意義なことだと思う。あるお坊さんがテレビで数息観の解説をしていて、「人間は生きている間、一つだけ自分の思うようにコントロールできるものがある。それは呼吸です」と言っていた。私たちは神様から息を与えられて、生きているのに、その息を疎かにしている。深呼吸すらロクにせずにこの世で息を引き取っている人は多いのではないか。人間は土から生まれ、土に帰るのではなく、呼吸を見つめ、命を知り、命の与え主を思い出す。そして、その命、息をいつの日か神様は一度引き取ってください、また復活させてくださる。息を、命を大切にしない人に復活は救いだろうか？(続く予定)